

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「更級日記 ～門出～」問題②

①門出ししたる所は、巡りなどもなくて、かりそめの茅屋の、蔀などもなし。簾かけ、幕な

ビひきイたり。南ははるかに野の方見やらウ。東西は海近くて、いとおもしろし。夕霧

⑤立ち渡りて、いみじうをかしければ、朝寝などもせず、かたがた見つ、ここを立ち

オなむこともあはれに悲しきに、同じ月の十五日、雨かきくらし降るに、境を出でて、

下総の国のかたといふ所に泊まりキぬ。庵なども浮きクぬばかりに雨降りなどすれば、

恐ろしくていも寝られコず。野中に丘だちサたる所に、ただ木ぞ三つ立シる。

その日は雨にぬれたるものども干し、国に立ち遅レたる人々待つとて、そこに日を

④暮らしソ。

十七日のつとめて、たつ。昔、下総の国に、まのの長といふ人住みタケり。ひき布を

千むら、万むら織らチせ、さらさッセテケるが家の跡とて、深き川を舟にて渡る。昔の

門の柱のまだ残りトたるとて、大きな柱、川の中に四つ立てナり。人々歌よむを聞きて、

心の内に、

③朽ちもせニぬこの川柱残らヌは昔の跡をいかで知らセまし

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「更級日記 ～門出～」 解答②

サ変用 完了

力下二用

①門出しあたる所は、巡りなどもなくて、かりそめの茅屋の、蔀などもなし。簾^②かけ、幕な

ど^③ひき^イたり。南ははるかに野の方^④見やら^ウる。東西は海近くて、いとおもしろし。夕霧

力四用 存続

ラ四用

自発 ラ四用 打消 マ上一用 タ四用

サ変未

立ち渡りて、いみじうをかしければ、朝寝なども^⑥せ^エず、かたがた^⑦見つつ、ここを^⑧立ち

強意 仮定

ラ四用

オ^なカ^ムこともあはれに悲しきに、同じ月の十五日、雨^⑨かきくらし^⑩降るに、境を^⑪出でて、

ハ四用 完了

ナ下二用 可能 打消 タ四用 強意

ラ四用

下総の国のかたと^⑫いふ所に^⑬泊まり^キぬ。庵なども^⑭浮き^クぬばかりに雨^⑮降りなど^⑯すれば、

ハ四用 完了

タ下二用 寝られ^コず。野中に^⑯丘だち^サたる所に、ただ木ぞ三つ^⑯立て^シる。

サ四用

恐ろしくていも^⑰寝られ^コず。その日は雨に^⑲ぬれ^スたるものども^⑳干し、國に^㉑立ち遅れ^セたる人々^㉒待つとて、そこに日を

サ四用 完了

タ四用

暮らし^ソつ。

ラ四用

タ四終

ハ四用

タ四終

十七日のつとめて、^㉓たつ。昔、下総の国に、まのの長と^㉔いふ人^㉕住み^タけり。ひき布を

ラ四用 存続

タ四用

ハ四用

タ四用

千むら、万むら^㉗織ら^チせ、^㉘さらさ^ツせ^テけるが家の跡とて、深き川を舟にて^㉙渡る。昔の

ラ四用 存続

タ四用

ハ四用

タ四用

門の柱のまだ^㉚残り^トたるとて、大きな柱、川の中に四つ^㉛立て^ナり。人々歌^㉜よむを^㉝聞きて、

ラ四用 存続

タ四用

ハ四用

タ四用

心の内に、

タ一用 サ変未 打消

ラ四用 打消

タ四用 反寒仮想

ラ四用 打消

タ四用 打消

ハ四用

タ四用